

ごあいさつ



全国公立学校教頭会
会長 平林 隆行

佐賀大会によせて

第63回全国公立学校教頭会研究大会佐賀大会の開催にあたり、全国公立学校教頭会を代表しまして、ご挨拶申し上げます。本研究大会を開催するにあたり、文部科学省、全国都道府県教育長協議会、佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀市、佐賀市教育委員会をはじめ、関係諸機関や諸団体からのご支援とご協賛をいただきましたことに深く感謝いたします。

全国公立学校教頭会は、全国2万8千人の会員が「政策提言能力を備えた職能研修団体」として、副校長・教頭の社会的地位や専門性の向上を目指して4つの方針のもと、活動しています。

その第一の柱である「研究活動の充実」は重要な柱であり、全国公立学校教頭会のまさに「命」といえるものです。本年度は、全国統一研究主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」を掲げた第12期の2年目の年となります。1年次は岡山大会で「紙面発表大会」という初めての形での研究成果と課題をもとに取り組んでまいりました。

さらに本大会においては「自立・協働・創造」という基礎の上に「志」「豊かな心」「未来を切り拓く」をキーワードに、「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」をサブテーマとして設定し、研究に取り組んでまいります。

この研究をととして、子供たちが変化の激しいこれからの社会を主体的に生きていくために必要な資質・能力（コンピテンシー）を、学校と社会とが連携・協働しながら育てていくための「社会に開かれた教育課程」の実現等を目指し、副校長・教頭としての専門性を高めることを目標といたします。

また、本大会におきまして、副校長・教頭としての「継続性」「協働性」「関与性」に焦点を当てた全国からの多様な実践研究が提案されます。「代表参加」「参加型分科会」等の取組により、さらに参会者の方々の力量が磨かれるものと確信しております。

結びに、幕末から明治の時代に最新の科学技術を導入し、新しい国家の形成をリードした佐賀における本研究大会が、豊かで実り多きものとなりますよう祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」に向けて

佐賀県は、九州の北西部に位置し、東は福岡県、西は長崎県に接し、北は玄界灘、南は有明海に面しています。唐津・伊万里・有田などは古くから陶磁器の産地として有名で、温泉街も点在しています。豊かな自然やそこで育てられた佐賀牛・米・酒・海苔などのおいしい食べ物も多く、自然や歴史、文化的資源が県内各地に豊富に存在しています。

この佐賀の地において開催します今回の大会では、第12期全国統一研究主題を踏まえ、サブテーマを「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」と設定いたしました。

「志」とは、子供たちが故郷への誇りを胸に、未来の故郷や世界で活躍する姿を思い描きながら生き生きと活動するため、心に思い決めた目的や目標を表しています。平成30年に明治維新150年を迎え、幕末から明治維新时期に新しい時代を切り拓いた先人の「志」を今に生かし、未来につなげていく力を育てているところです。

「豊かな心」とは、子供たちが、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心などを表します。自然や人々とのふれあいを通して豊かな感性や心情を育み、他者と協力しながら様々な課題を解決していくという教育的風土が脈々と受け継がれているのです。

「未来を切り拓く」とは、様々な情報をいち早く取り入れ、先見性とチャレンジ精神をもって積極的に挑戦することを表します。変化の激しいこれからの未来をたくましく切り拓いていく力を育てているところです。

佐賀大会では、統一主題とサブテーマをもとに、岡山大会では叶わなかった研究協議が活発になされることを願っています。全国からご参加いただく先生方と、これからの日本の教育のあり方について一緒に考えていくことができれば幸いです。関係者一同、大会の充実こそが何よりのおもてなしという心で、大会開催に向け準備を進めています。



佐賀大会実行委員会
委員長 小川 裕子

(写真提供：佐賀県観光連盟)

第63回 全国公立学校教頭会研究大会 第61回 九州地区公立学校教頭会研究大会

佐賀大会

第二次案内

オンラインによる大会

研究主題 「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」

キーワード 「志」「豊かな心」「未来を切り拓く」

サブテーマ

「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」

期日 2021年 8月3日(火)・4日(水)

会場 全体会場 グランデはがくれ
分科会場 グランデはがくれ

全国公立学校教頭会 九州地区公立学校教頭会 佐賀県小中学校教頭会

写真提供：佐賀県観光連盟 唐津曳山取締会



テーマ 『志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進』

研究の基本目標

今後、わが国の社会はグローバル化がますます多様性をもたらし、急速な情報化や技術革新による生活の質的变化の進展が予想されています。また、このような将来の予測が難しい社会の中、志高く未来を創りだしていくために必要な資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育の実現が求められています。教育の現場にいる私たちは、新たな事態に直面した今後の教育の在り方を見極め、日本国憲法や教育基本法の理念に基づき、学校教育の中に実現していくことが、大きな使命と考えています。

このような背景を踏まえ、「社会や地域とともにある学校づくり」を展開し、「生きる力」を育むことをねらいに、豊かな人間性や創造性をもち、国際社会の一員としての自覚をもった人間を育成するために私たちは貢献しなければなりません。また、私たちは、副校長・教頭の職務内容の研究を通して力量を高め、国民の期待に応える魅力ある学校づくりに努める必要があります。

以上のことから、次のことを研究の基本目標とします。

○教育理念に基づく学校教育の実現

特色ある学校づくり、社会に開かれた学校づくりを展開し、生きる力を育む学校教育の実現を目指す。

○副校長・教頭としての力量の向上

広い視野に立って学校運営が行えるよう、学校教育に対する識見を深める。

○学校の社会的役割の推進

国民の期待に応える魅力ある豊かな学校づくりを推進する。

研究の基本方針

1 学校教育の課題の解決に努める

私たちの研究は、国民の期待に応え、教育基本法及び学校教育法等の諸法規に定められた教育の目標を達成することを究極の目的とする。そのために自ら職能を高め、学校現場が抱えている課題の解決に努める。

2 副校長・教頭の職務内容や職務機能を追究する

学校運営において副校長・教頭としての関わりを大切にし、その職務内容を実践的に追究するとともに職務の充実を図る。

3 研究成果を政策提言活動（要請活動）に生かす

研究活動と政策提言活動（要請活動）は全国公立学校教頭会の活動の2本柱である。研究の成果を政策提言活動に生かし、教育環境の整備に役立てていくよう努める。

| 分科会 | 課題 | 各課題の内容 | 提言テーマ | | | 会場 |
|------|-----------------------|--|------------|--------|--|---------------------|
| 第1A | 教育課程に関する課題 | ○教育課程の編成・実施・評価 ○学校経営・学校運営 ○教育理念 ○教育目標の設定 ○信頼される学校づくり ○生きる力 ○幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携 ○コミュニティスクール ○土曜授業 ○地域との連携 | 全国 | 神奈川（小） | 豊かな人間性と創造性を育む学校を目指して —「教頭力」向上のために— | グランデはがくれ ハーモニーA |
| 第1B | | | 九州 | 福岡（中） | 現代的諸課題に対応するための副校長・教頭会の組織的取組 —「汎用性」と「独自性」からの分析をとおして— | |
| 第2 | 子供の発達に関する課題 | ○豊かな人間性の育成 ○健康・体力の増進 ○確かな学力 ○課題を発見し解決する力 ○子供の発達を支える教育課題 | 全国 | 福井（中） | 未来を担う力を育む保幼小・小中接続のあり方 —0歳から15歳までの「学びのつながり」づくり— | グランデはがくれ ハーモニーB |
| | | | 九州 | 沖縄（小） | 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組の充実について —「北谷町スマイルプログラム」を活用した支持的風土のある学年・学級づくりを通して— | |
| 第3 | 教育環境整備に関する課題 | ○安全・安心 ○施設設備 ○家庭・地域との連携 ○学校規模適正化 ○文書事務・経理事務 ○教育の情報化 | 全国 | 京都（中） | 小中連携、地域社会との連携・協働を通して、社会貢献できる生徒の資質・能力を高めるためのカリキュラム・マネジメントの確立 | グランデはがくれ フラワーA |
| | | | 九州 | 熊本（小） | 組織的な小中連携の在り方と副校長・教頭の役割 —各中学校区小中連携構想図等を活用した学びと育ちの滑らかな接続を目指して— | |
| | | | 佐賀 | 鳥栖（中） | 児童生徒の豊かな人間性の育成 —地域との連携を深める取組を通して— | |
| 第4 | 組織・運営に関する課題 | ○学校運営全般 ○人材育成 ○組織力の向上 ○危機管理や情報管理 ○地域連携 ○異校種連携 | 全国 | 鳥取（中） | 生徒の自主的活動による安心・安全な学校づくりと教頭の関わりについて —「楽しく安全な学校づくりサミット」の取組をとおして— | グランデはがくれ フラワーC |
| | | | 九州 | 鹿児島（中） | 学校の教育的環境整備に教頭としてどのように関わるべきか —業務改善の推進と生徒の資質・能力の向上を目指して— | |
| | | | 佐賀 | 佐賀（小） | 児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることのできる環境整備に係る取組 —防災体制づくりの視点を通して— | |
| 第5A | 教職員の専門性に関する課題 | ○教育の専門家としての意識高揚 ○指導力の育成 ○研修 ○サービス・コンプライアンス意識 ○小中一貫教育 ○協働体制の構築 ○学校運営参画意識の向上 | 全国 | 北海道（小） | チームとして推進するカリキュラム・マネジメント —組織力の向上と人材育成における教頭の役割— | グランデはがくれ シンフォニーA |
| | | | 九州 | 宮崎（小） | コミュニティスクール導入期の組織づくりと副校長・教頭の役割 —A中学校区コミュニティスクールの実践を検証して— | |
| | | | 佐賀 | 武雄（中） | 非常変災等における危機管理体制と副校長・教頭の役割 —武雄市内小・中学校での危機管理体制の見直しを通して— | |
| 第5B | 教職員の専門性に関する課題 | ○教育の専門家としての意識高揚 ○指導力の育成 ○研修 ○サービス・コンプライアンス意識 ○小中一貫教育 ○協働体制の構築 ○学校運営参画意識の向上 | 全国 | 岩手（中） | 教職員の意識高揚を図るための副校長・教頭としての関わり —教職員がやりがいを感じるための取組を通して— | グランデはがくれ シンフォニーB |
| | | | 九州 | 長崎（小） | 教職員の資質向上を図り、魅力ある学校をつくるための副校長・教頭の役割 —若年教師の資質向上を図るための工夫— | |
| | | | 全国 | 高知（小） | 教員の指導力・授業力を高める仕組みを整えるための副校長・教頭の関わり | |
| 第6 | 副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題 | ○「全国公立学校教頭会の調査」について結果報告及び考察 ○文部科学省財務関係者等からの講演 | 全国 | 高知（小） | 教員の指導力・授業力を高める仕組みを整えるための副校長・教頭の関わり | グランデはがくれ 脊振 |
| 特別I | 特別課題 | ○時宜に応じた課題 | 全公教総務部・研究部 | | | グランデはがくれ 多良 |
| 特別II | 特別課題 | ○開催地の創意を生かした課題 | 全公教研究部 | | | グランデはがくれ 有明 |
| | | | 佐賀県 | | ① ICTを活用した業務改善に向けての副校長・教頭の役割と指導性 ② 人事評価制度を活用した人材育成のための副校長・教頭の役割と指導性 | グランデはがくれ 黒髪 |



開催要項

主催

全国公立学校教頭会 九州地区公立学校教頭会 佐賀県公立学校教頭会

後援

文部科学省・佐賀県・佐賀市・全国都道府県教育長協議会・佐賀県教育委員会
佐賀県市町教育長会連合会・佐賀市教育委員会
福岡県教育委員会・鹿児島県教育委員会・沖縄県教育委員会・宮崎県教育委員会
大分県教育委員会・長崎県教育委員会・熊本県教育委員会
全国連合小学校長会・全日本中学校長会・佐賀県小学校校長会・佐賀県中学校校長会
佐賀県退職教頭会・公益社団法人日本教育会
公益社団法人日本 PTA 全国協議会・佐賀県 PTA 連合会 (順不同)

大会主題

「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」

(全国統一研究主題 第12期2年次)

キーワード 「志」・「豊かな心」・「未来を切り拓く」

サブテーマ 「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」

開催期日

2021年8月3日(火)・8月4日(水)

開催地

佐賀県佐賀市

会場

全体会場：グランデはがくれ
分科会場：グランデはがくれ

日程

| | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | |
|------------------|------|----------|-------|-------|-------|--------|-------|---------|-------|
| 【1日目】 8月3日(火) | | 開会 行事 | 記念講演 | 昼食 | | シンポジウム | | 諸 連絡 | 16:45 |
| 【2日目】 8月4日(水) | | 分科会 | | 昼休み | 分科会 | | | | |

記念講演

(対談形式)

講師 緒方 孝市氏(プロ野球 前広島東洋カープ監督)
聞き手 高木 健氏(佐賀県教育委員会保健体育課係長)
演題 「組織を活かすマネジメント」

シンポジウム

テーマ「高い志 豊かな心 切り拓く未来」

コーディネーター 富吉賢太郎氏(学校法人佐賀清和学園理事長 元佐賀新聞論説委員)
シンポジスト 中島 潔氏(日本画家 絵本作家)
シンポジスト 坪田 信貴氏(坪田塾塾長)
シンポジスト 竹下 真由氏(竹下製菓株式会社代表取締役社長)

記念講演 講師・シンポジスト紹介

記念講演 【8月3日(火) 10:00~】

演題 「組織を活かすマネジメント」

講師 緒方 孝市(おがた こういち)氏 野球評論家(前広島東洋カープ監督)
佐賀県鳥栖市出身 1968年12月25日生(52歳)



【講師紹介】

- 小学生から野球を始め、中学校では3年時にセカンドのレギュラーとして、県中学総体を制し、九州大会に出場。
- 高校は猛勉強の末、前年甲子園に出場した県立鳥栖高校へ進学。走攻守の揃った大型セカンドとして活躍。3年時にはキャプテンとして春の九州大会ベスト8。在校時代は九州大会出場2回、県大会優勝3回、準優勝2回、ベスト41回。
- 広島東洋カープ入団後は俊足を活かすために外野手に転向。1995年には47盗塁を記録し盗塁王を獲得。96、97年も獲得し、3年連続盗塁王に輝く。同じく95年から5年連続で守備の名手に贈られるゴールデングラブ賞を受賞。また、全力プレーによるけがでの戦線離脱も多かったが、その都度復活。現役後半は、足のけがで減少した盗塁に代わり、打率アップや本塁打を量産。常に前向きに、その時の自分に合ったプレースタイルを作り上げていく姿勢は後輩選手の手本となった。
- 現役引退後は一軍コーチを経て2015年に監督に就任。1年目4位の反省を生かし、翌年は見事に、カープを25年ぶりのセントラルリーグ制覇に導く。ここから球団初のリーグ3連覇は記憶に新しいところ。
現在は、現役選手、コーチ、監督の経験を活かし、野球評論家として活躍中。

【経歴】

- 1984年 鳥栖市立鳥栖中学校卒業
- 1987年 佐賀県立鳥栖高等学校卒業
- 1987年 広島東洋カープ入団(ドラフト3位)
- 2009年 現役引退
- 2010年 広島東洋カープ一軍野手総合コーチ
- 2011年 // 守備走塁コーチ
- 2013年 // 打撃コーチ
- 2014年 // 野手総合ベンチコーチ
- 2015年 // 監督就任
- 2019年 // 監督退任
- 現在 プロアスリート所属 野球評論家

シンポジウム 【8月3日(火) 13:30~】

テーマ 「高い志 豊かな心 切り拓く未来」

コーディネーター 富吉賢太郎氏 学校法人佐賀清和学園理事長



【略歴】

- 1972年4月 佐賀新聞社入社
入社以来一貫して報道記者として現場取材
- 1994年4月 報道部長兼論説委員
- 2003年4月 論説委員長
- 2011年4月 取締役編集局長
- 2013年6月 常務取締役
- 2016年6月 専務取締役
- 2019年4月 学校法人佐賀清和学園理事長
佐賀新聞社名誉論説委員長

シンポジスト 中島 潔氏 日本画家・絵本作家



【略歴】

- 1943年 4月生まれ 佐賀県出身
- 1961年 上京し様々な仕事をしながら独学で絵を学ぶ
- 1982年 NHK「みんなのうた」のイメージ画を手がける
- 1987年 ポローニャ国際児童図書館でグラフィック賞受賞
- 2001年 パリ・三越エトワール美術館にて海外展開
- 2011年~2013年 清水寺成就院に襷絵46枚を奉納し展覧会開催
- 2015年~ 京都・六道珍皇寺に心音図5点を奉納し展覧会開催

現在は、2022年佐賀から始まる展覧会の作品に取り組んでいる。新作では、今という瞬間を前向きに生きる女性の美しさを描いている。中でもいにしえより伝承されてきた日本独自の芸能や伝統に関わり、柔軟な発想で新しい力を吹き込む女性たちを題材にした。彼女たちの挑戦と輝く瞳を通して観る人にあらためて日本の風土に根付く文化の魅力を伝えたいと考えている。

シンポジスト 坪田 信貴氏 坪田塾塾長



個別指導 坪田塾 塾長。累計120万部突破の書籍「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話」(通称ビリギャル)の著者。これまでに1300人以上の子どもたちを個別指導し、心理学を駆使した学習法により、多くの生徒の偏差値を短期間で急激に上げることで定評がある。大企業の人材育成コンサルタント等も務め、起業家・経営者としての顔も持つ。テレビ・ラジオ等でも活躍中。新著に『吉本興業の約束』がある。東京都在住。

主な著書 「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話」「人間は9タイプ 子どもとあなた伸ばし方説明書」「人間は9タイプ 仕事と対人関係が読める人間説明書」「バクノビ子どもの底力を圧倒的に引き出す339の言葉」「世界に一つだけの勉強法」「才能の正体」

シンポジスト 竹下 真由氏 竹下製菓株式会社代表取締役社長



【略歴】

- 2005年 東京工業大学 工学部
経営システム工学科卒業
- 2007年 東京工業大学大学院 社会理工学研究科
経営工学専攻 修了
- 2007年 アクセンチュア株式会社
戦略グループ東京都入社
- 2011年 竹下製菓株式会社入社
- 2014年 5月より同社 商品開発室長
- 2016年 4月より同社 代表取締役社長